

製品名: フィブリラリンウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21572**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:34kD;Observed MW:34kD

抗原情報

遺伝子名	FBL
別名	FIB1 FLRN
遺伝子 ID	2091.0
SwissProt ID	P22087
免疫原	ヒトフィブリラリンの合成ペプチド

背景

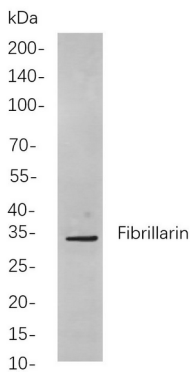
細胞局在: 核。この遺伝子産物は、核小体小核リボ核タンパク質 (snRNP) 粒子の構成要素であり、プレリボソーム RNA の処理における最初の段階に関与すると考えられています。U3、U8、U13 小核 RNA と関連し、核小体の高密度線維成分 (DFC) に局在しま

す。コードされているタンパク質は、他の種のフィブリラリンと同様に、グリシンおよびアルギニン残基を豊富に含む N 末端反復ドメインを含みます。その中央領域は RNA 結合ドメインに類似し、RNP コンセンサス配列を含みます。自己免疫疾患である強皮症の患者の約 8% の抗血清がフィブリラリンを認識します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

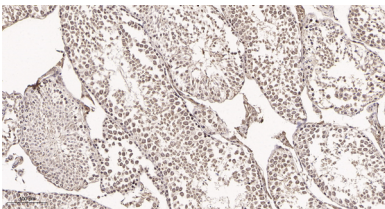
研究分野

-

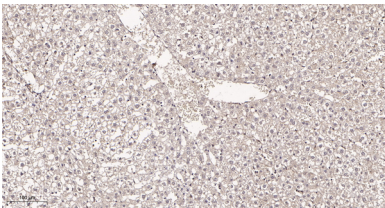
画像データ



3T3-L1 細胞ライセートのウェスタンブロット解析 (フィブリラリンウサギ mAb を使用)。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。



パラフィン包埋マウス精巣組織の免疫組織化学分析。1、フィブリラリンウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ラット肝臓組織の免疫組織化学分析。1、フィブリラリンウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。